

第2回山梨市下水道事業審議会議事概要

日 時 令和2年9月23日 13:30～15:00

場 所 山梨市役所 502会議室

1. 開会

2. 議事 [出席委員：9名 事務局：下水道課長以下4名]

議事① 前回の審議内容について

前回議事録を参照し、内容確認。

(質問、意見なし)

議事② 下水道事業の現状と課題について

【現状】

- 山梨市の汚水をきれいな水に処理するのが笛吹市油川にある峡東流域下水道浄化センターである。そちらへ維持管理負担金として、山梨市は68円/m³を流域へ支払いをしている。令和元年度は、約100万m³が不明水となるので、6千8百万円余を維持管理負担金として支払っていることとなり、この不明水を無くし、支出を抑制していかなければならない。現在、5か年計画でカメラ調査を実施している。
- 赤字補てん分である一般会計からの基準外繰り入れについては、年々減少している。令和元年度決算では、5千4百万円余、今年度の予算は7千4百万円余であり、これを0にしていくことが求められている。
- 平成29年度より特別会計から公営企業会計へ移行となった。この移行により、1年間の現金の出入りだけでなく、資産や負債、実際には現金の出入りを伴わないものも含めて、管理することとなった。そのため、官公庁会計より財政状況をより把握できる。

議事③ 県内各市との比較について

【水洗化率】

- 山梨市は79.4%であり、県内では9番目となっている。
- 下水道法上では、下水道へ接続できる状態になったところは遅滞なく接続するよう記されているが、個人の経費が掛かるので強制できない状態である。
- 下水道への接続に関しては、補助金制度を平成24年度から設けており、補助金の対象となるのは、①下水道供用開始1年以内②汲み取り便所を使用している世帯は供用開始3年以内③65歳以上のみの世帯④平成12年6月以降に合併浄化槽を設置して下水道へ切り替える世帯 の4つのうち1つでも当てはまれば対象となる。補助金額

は、公共下水道へ接続する工事費の3分の1、上限10万円である。

- 広報等により下水道接続に関する普及促進を実施しているところであるが、合わせて臨戸訪問など実施している。

【使用料金】

- 平均的な一般家庭の使用料である2ヶ月40m³使用した場合の使用料と比較すると山梨市は、県内13市のうち3番目に高い使用料となる。

議事④ 料金改定案について

【パターン1 平均使用料改定率11.7%】5,799円(2ヶ月・40m³)

経営戦略に基づき令和6年度での基準外繰り入れをゼロにとするため、単価158円(税抜)を採用した場合。

【パターン2 平均使用料改定率5.9%】5,440円(2ヶ月・40m³)

コロナ禍を受け値上げ幅を緩やかにし、令和12年度での基準外繰り入れをゼロにとするため、単価149.7円(税抜)を採用した場合

パターン1の場合は、県内13市のうち1番高い料金となる。また、パターン2の場合は県内で2番目に高い料金となる。同規模の全国平均では、6,480円となり、県内全体が全国に比べ低い料金であることがわかる。

(委員) 企業誘致に関しても考えてみると、水道や下水道は一番最初に発生する経費として考える。値上げすると普及率もどうなるのか心配である。それより値上げしないで普及率を伸ばすのも一つの考え方でないか。

コロナの時代で経済的に困窮している業種も多いので、時代にあった考えがあるべきはないか。

(委員) 「下水道普及率」が私の組は100%であり、用水路がすごく綺麗だということと河川清掃も草取り程度で終わってしまうというのを今、思い出しました。

そうした下水道の良い面をもっとアピールすべきではないか。

(委員) 料金の値上げは経営上必要だと考えるが、基準外繰入を0にするのがたとえ先になってもコロナ時代にあったものを考えた方がいいのではないか。

(委員) 私たちも行政ばかりに頼っていないで、水洗化率について協力できることは協力したい。

(委員) 下水道の普及が浸透してないのではないだろうか。

(事務局) 毎年、広報やCATVなどで下水道接続についてのお願いをしている。

また、9月10日が下水道の日となっているが、その近辺で市内のスーパー

の店頭において下水道普及活動及び相談ブースを設けている。最近では、市のイベントでそうした活動も行っている。

それだけでは効果があまり見られないことから、一昨年から未接続世帯に対し、実際に訪問し、補助金の説明や接続のお願いをしている。

訪問時に未接続の理由を聞くと、一つは経費が掛かること。そして、もう一つは高齢で跡取りがいないことが理由として多い。

地域の水質改善というテーマがあるので、それを訴えてはいるが、人それぞれ考えがあり、理解していただくには難しい状況である。

今後は、補助金の制度自体を考えていきたい。平等というのは難しいが、平成24年からの制度なので、もう少し活用しやすい補助金を考えている。

(委員) 補助金を工事費の2分の1、最高15万円くらいにすれば良いのでは。

(委員) 下水道に関するパンフレットなどを作っただけであれば普及率を上げるために私たちもお役に立てるのではないかなと思う。とにかく値上げありきの審議会ではない審議をしたい。

(委員) 加入率を上げる、それが最優先だと思う。そうすれば環境がよくなるし、街としてもレベルが上がり、人口増加に影響があるかもしれない。人口が増え、収入がプラスに転じれば、将来的に料金を下げるということも考えられるのではないか。

目先のことではなくて、長期的な視点で考えていかないと、下水道の問題は解決していかないのでは。

(委員) 交付税不交付団体の下水道使用料も見てみたい。

(事務局) 次回、資料として用意する。

(議長) 未接続の家は地域的に集中しているとかそういうのはあるのか。

(事務局) 地域により顕著に接続率が低いというのではない。加納岩、日下部地区は最初に事業をやってきているので、そういうところの方が接続率が高いと感じる。次回、資料を用意する。

(議長) 直接訪問するのが一番効果があると思う。今年はこの地域を集中的にやるなど目標を決め、地元で集まりがある際にそうした集会へ参加し、説明することも考えるとよいかと思う。

(議長) 接続工事費に対しての貸付制度っていうのはあるのか。

(事務局) ある。

(委員) 市民が使用している水量以外にも、雨水などの侵入水により汚水処理負担金を経費として支払っており、それを無くすためにいろいろな調査をして改善するところがあったという説明があったが、今後も積極的にやってほしい。

(議長) 他市の状況をもう少し調べてもらい。次回、また審議していきたい。

議事⑤ 次回日程について

(事務局) 次回の日程は9月23日(水)に実施する。